

# 千代田化工建設、 大いなる飛躍に向けて



千代田化工建設株式会社  
代表取締役社長  
澁谷 省吾

JOI設立25周年に賀意を表したい。永きにわたり、日本の海外直接投資の円滑な展開、諸外国との経済交流の促進に寄与されて発展を続けてこられたことを心から喜ばしく思う。

当社千代田化工建設株式会社は、1948年の設立後、国内における石油精製プラントを中心とするビジネスを開始した。その後70年近くにわたり、石油、石油化学、ガス精製・液化（LNG）から医薬品・ファインケミカル・産業設備などの幅広い分野において、海外においても各種プラントの設計・資材調達・建設・試運転などで豊富な実績を積み上げてきた。今日に至るまで、日本の政策金融機関である国際協力銀行（JBIC）にも支援頂いたことが、当社の大きな発展の礎となったことはいうまでもない。

現在、コア事業であるガス・LNG分野では、豪州、米国、ロシアにおいて大型LNGプラント建設の着実な遂行や顧客向けのエンジニアリングサービス等を提供するほか、インドネシアでのLNG拡張プロジェクトを受注するなど、地域展開を進めている。また、石油および石油化学分野、オフショア・アップストリーム分野に加え、再生可能エネルギーの分野においては太陽光によるメガソーラー、非鉄・金属分野ではスポンジチタン製造、銅精錬プラントなどに取り組んでいる。さらに、ライフサイエンス分野においては、従来より手がける医療品事業が順調に拡大し、新たにiPS細胞由来の医療への取り組みを開始している。加えて、植物工場の海外展開を推進し、環境の厳しい地域でもレタスなどの葉物野菜の栽培を行うことにより食の安定供給に貢献していく。2020年に向けては、海外から水素を運び発電燃料として利用する水素サプライチェーンの実証プロジェクトを進めている。

今日まで、当社は磨き上げたエンジニアリング技術と知見を活用することによりプラントの設計・調達・建設・試運転・運転・保全に及ぶ幅広いサービスを提供してきた。昨年10月には、「AIソリューションユニット」を新設し、今後は当社のコア技術にビッグデータ

解析技術やAI（人工知能）技術などの最先端技術を融合する。さらに、プラントのライフサイクル全般における最適化に向けたAI技術の活用・開発を進めること、そして先進的なソリューションサービスを提供することを目指し、同12月、社会インフラの課題解決の事業を展開するAI分野でのトップランナーである株式会社グリッドと業務提携契約を締結した。これにより、従来であれば、事後に対応していた機器のトラブルや非効率な運転状況の出現に関し、IoT技術を活用したビッグデータ解析技術による予兆の把握のみならず、予測や対応策にAI技術を適用することが可能になり、顧客プラント資産の経済性向上に貢献していくことができる。

一方で、世界に目を向けると、昨年は中東やその他各地におけるテロ事件、英国のBREXIT、米国大統領選挙、パリ協定やCOP22による国際協調などなど目まぐるしい動きがあった。日本としては、TICAD VIの開催、ロシアへの経済協力と領土問題解決への取り組み、また質の高いインフラ輸出の促進などを行い、国際貢献に対する積極的な姿勢がみられた。さらに、アベノミクスや日銀の金融政策が進められ、昨年末には97兆円を上回り過去最高額となる2017年度予算案が閣議決定されるなど、来年度に向けた動きも活発化している。

当社は、中期経営計画「時代を捉え、時代を拓く」の最終年度の締めくくりとして、これまで推し進めてきた成長戦略・基盤整備の諸施策を仕上げつつ、企業価値の向上を目指している。原油価格の低迷の中でエネルギー関連の設備投資は停滞気味であり、世界各地の地政学的リスクの高まりなど事業環境の先行き不透明感は続くが、今後のJOIの発展とともに、また引き続きJBICからの支援を受けつつ当社としてもしっかりとした営業戦略とグローバルな遂行体制のもと、未来を見据えて進むべき方向を定めて新たな時代のエンジニアリングビジネスを切り拓く所存である。

